

グループワークの進め方について

○グループワークについて

一般的な方法は、参加者同士が囲んで向かい合って話し合う方法がとられていて、「そよ風」もこれを実践してきました。グループワークをより、楽しく・充実したものにするために、グループワークの方法を検討してみたいと思います。

○従来型グループワーク(わかちあい)の問題点

言いつばなし、聞きつばなしというスタンスですけれども、話せる人とそうでない人とで、どうしても参加することができない人が出てきます。

個人的問題にかたよりがちで、傾聴に終わってしまい、どうしても達成感が低い。

○改良型グループワーク(仮称)

一つのテーマに対して、皆の発想をもとにグループワークを進めていく方法を学びたいと思います。全員が参加できる方法です。

○改良型グループワーク(仮称)の目的：参加者同士の交流を深める。

○改良型グループワーク(仮称)の方法

- ① ファシリテータを決める。
- ② 参加者でテーブルを囲み、テーブルにホワイトボードとなるシートを用意する。
- ③ ファシリテータがテーマと時間を決めて、参加者が水性マーカーで付箋に気付いたことを書き込んでいく。
- ④ テーマに対して、参加者が付箋に書いたことを、意見を述べながら、ホワイトボードに貼っていく。
- ⑤ 似たような内容の付箋を近くに貼り付けていき、そのまとまりをカテゴリー化していく。
- ⑥ カテゴリー化したもの同士の関連性を語り合いながら、ホワイトボードマーカーで、その関連性をつないでいく。必要であれば、記述する。
- ⑦ 時間を決めて、それまでの意見や意見の関連性をまとめたホワイトボードを見て、参加者はテーマについて再び考え、自分の考えをまとめて、A4用紙に書き留めていく。
- ⑧ ⑦を皆で発表し合う。
- ⑨ ファシリテータが皆の発表をまとめて、テーマについて、一定の結論を導き出す。
- ⑩ ①～⑨までの過程と⑨の結論について、時間を決めて、皆で意見交換する。

○改良型グループワーク(仮称)の問題点

テーマを決める段階で、ファシリテータのイニシアティブ(主導権)が強くなり、参加者が現在抱えている問題と関わらない可能性が高い。

○今後の方針

従来型グループワーク(わかちあい)の前に、改良型グループワーク(仮称)を行い、参加者同士の交流を深めてから、今までと同様の従来型グループワーク(わかちあい)を行う。